

愛知県サッカー協会医科学委員会調査報告
育年代サッカー選手のスポーツ障害予防のために

愛知医科大学 神谷光広

愛知県サッカー協会医科学委員会では、育年代サッカー選手のスポーツ障害予防のためのメディカルサポート体制として、メディカルマネージャー制度の導入を検討しています。この度技術委員会に協力していただきメディカルサポートの現状を把握するためのアンケートを実施しました。

サッカーメディカルマネージャーとは現場において、監督・コーチの手助けをして選手の健康管理を行い、医療サイドとの橋渡しをするものです。コーチ、トレーナー、保護者、部員、マネージャー等が講習会を受講し、認定されます。メディカルマネージャーはヘルスチェックシートや外傷・障害レポートを提出し、ケガや故障の予防に繋げることを目標としています。

アンケート回収率は41%でした。(回収数105、配布数259 (第2種190、第3種69))

アンケート回答者は2種91人(86%)、3種6人(6%)、4種3人(3%)、未回答6人、指導者のライセンスはS級0、A級0、B級14、C級34、D級4、無し58であり、主に高校の部活動関係者です。

かかりつけの医療施設として、6チームが病院・医院・クリニック、11チームが接骨院との連携がありました。メディカルサポートを受けているのは15チーム(14%)のみ(ほぼ毎日2チーム、週2、3回が3チーム、試合時など不定期が10チーム)でした。65チームが今後メディカルサポートを受けたい(いいえ19)と回答されました。メディカルマネージャー制度については、88(89%)が良いと回答されており、メディカルマネージャーがメディカルサポートを希望するチームと医療サイドを結ぶ役割として期待ができます。

希望するメディカルサポートの内容は、ストレッチング指導59(20%)、フィジカルトレーニング指導53(18%)、栄養指導50(17%)、テーピング46(16%)、選手の直接検診34(12%)、選手傷害予防のための指導あるいは講義30(10%)、RICE応急処置15(5%)でした。

今後、サッカーフォーラムで取り上げて欲しいテーマとして、効果的なサッカートレーニング理論49(32%)、体幹トレーニングなどフィジカルトレーニング49(32%)、ケガの応急処置、ケガ後のリハビリトレーニング49(32%)がありました。アンケートの結果より、心身の発育にとって大切な育年代では、強化を目指しながら、障害を予防することの重要性を確認しました。